

今週（6月20日から6月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、20日の国債大量償還・利払いを受け、日銀当座預金残高が300兆円台と過去最高水準で推移した。取り手の資金調達ニーズは限定的となり、軟調な展開となったことで、週間の無担保コールO/N加重平均レートは徐々に低下していった。無担保コールO/Nは投信、地銀のオファーに対して銀行、証券勢のビッドが主体となり、▲0.08～▲0.03%と幅広いレンジで推移した。ターム物は、6月末を越えない1W物で▲0.05～▲0.04%、1Mで▲0.04～▲0.02%程度の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは23日に2W・8,000億円、24日に3M・15,000億円がオファーされた。23日オファー分は落札額4,130億円（期落ち額2,081億円）、24日オファー分は落札額50億円（期落ち額6,550億円）といずれも未達となった。28日時点のオペ残高は9,871億円程度と見込まれる。

●レポ市場

今週のO/N GCは▲0.07～▲0.04%近辺での取引が中心となった。週初から週半ば22日のT/N(23-24)までは大きな要因もない中で業者、投資家ともに売物が多く▲0.05～▲0.04%近辺での引合いとなった。22日のS/N(24-27)の取引は、日銀による利国の買入オペが通知された影響で業者の売物が減少し、出合いレートは▲0.07～▲0.06%程度に低下した。23日のS/N(27-28)はTDB3M物発行の影響で業者の売物が増加し、▲0.06～▲0.05%近辺での引合いとなった。24日のS/N(28-29)は日銀による利国、短国の買入オペが通知されたことや、英国のEU残留・離脱を問う国民投票の影響で売りが出難く、寄付きは▲0.10%出合いとなった。その後は徐々に売りが集まり、レートは▲0.075%まで上昇した。

SCIは個別銘柄では5y 125～128、10y 336～343、30y 48～50、40y 8～9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、英国のEU残留・離脱を問う国民投票を控えてか、海外勢の動きも少なく、様子見姿勢が強い閑散なマーケットとなった。

23日に実施された3M物の入札は、レートの上昇が予想されていたが、WI取引で▲0.25%の出合いが見られたためか、平均落札利回▲0.2441%、按分落札利回▲0.2224%（按分比率95.1836%）となるなど、按分利回は上昇したものの、平均利回は引き続き堅調な結果となった。その後のセカンダリーでは、▲0.25%の出合いが少額見られた程度であった。

24日に短国買入オペが1兆5,000億円で実施され、平均落札利回較差+0.021%、按分落札利回較差+0.002%（按分比率13.4%）となり、一定の売りニーズは見られたものの、落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、25日の前倒し発行が、石油・化学・ノンバンク・建設業態から多く見られたものの、週間発行総額は償還と同程度の約6,000億円にとどまり、落ち着いたマーケットとなった。発行レートは、買い手が少ない期内償還物では若干レートが上昇した。一方で、期末越え物については全般的に0%近辺で落ち着き、一部の優良銘柄やロングターム物では、投資家の玉確保ニーズの高まりからか、マイナス金利での発行が散見された。現先レートは引き続き低位横ばいで推移した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/20（月）	15,965.30	△ 0.150	104.65	△ 0.057	△ 0.051	3,007,000
6/21（火）	16,169.11	△ 0.145	104.10	△ 0.059	△ 0.046	3,016,800
6/22（水）	16,065.72	△ 0.149	104.50	△ 0.061	△ 0.049	3,020,200
6/23（木）	16,238.35	△ 0.145	104.65	△ 0.061	△ 0.071	3,012,800
6/24（金）	14,952.02	△ 0.199	101.50	△ 0.062	△ 0.060	3,028,000

# 来週（6月27日から7月1日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/27 (月)					
6/28 (火)		2Y 23,000億円 7/15発行			1-3月期の米GDP確報値 4月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 6月の米CB消費者信頼感指数
6/29 (水)	5月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)				5月の米個人所得・消費支出
6/30 (木)	5月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 5月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 44,000億円 7/4発行			6月のシカゴPM景況感指数 1-3月期の英GDP確報値 6月のユーロ圏消費者物価指数速報値
7/1 (金)	6月都区部・5月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 5月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 6月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 6月の消費動向調査(内閣府 14:00)				6月のISM 製造業景況指数 5月の米建設支出

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オベ合計	実質過不足	需給要因
6/27 (月)	▲ 100	▲ 18,300	▲ 18,400	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,100 ▲ 800 600	4,100	1,800	▲ 16,600	TB3M発行▲44000償還42100 20Y発行▲11000
6/28 (火)	0	2,000	2,000	全店共通 国債買入 短国買入	▲ 6,600  15,000	100 11,500 15,000	20,000	22,000	
6/29 (水)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
6/30 (木)	▲ 700	3,300	2,600	CP買入		4,500	4,500	7,100	地方法人特別税
7/1 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	全店共通	▲ 200		▲ 200	▲ 6,200	
週間合計	▲ 2,800	▲ 20,000	▲ 22,800	—	▲ 9,100	35,200	26,100	3,300	

6/27は日銀予想、6/28以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、27日がTDB3M、20Y発行によって資金需給上の不足日となる。無担保コールO/N加重平均レートは基本的に低下傾向が見込まれるが、四半期末を跨ぐ週となることで、取り手の動向が注目される。

短国市場は30日に3M物の入札が実施される予定となっている。7月の短国買入オベが増加することなどから、堅調な結果が予想される。

CP市場は27日にCP等買入オベが実施される予定となっている。期末越えのCP発行があまり膨らんでいないことから、按分レートは低下することが見込まれる。

主要なイベントとして、国内では1日の6月都区部・5月全国消費者物価指数、6月調査の日銀短観が挙げられる。海外では28日の1～3月期の米GDP速報、29日の5月の米個人所得・消費支出、30日の1～3月期の英GDP速報、6月のユーロ圏CPI速報値が挙げられる。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。